

松阪菊 (Matsusaka Chrysanthemum)

松阪菊には、大輪型と中輪型の2系統があります。

一般に「伊勢菊」と言われるのは中輪型をさします。

伊勢菊は、京都「嵯峨菊」が祖先種とされ、1412年頃伊勢の国司、北畠満雅(みつまさ)が持ち帰り、培養の結果作り出されたとする説等があります。

1830年頃の江戸時代後期、松阪新町の菊愛好家、木下藤八は大輪松阪菊を作出し、また伊勢菊を実生栽培から改良し、多くの品種の中輪松阪菊を作出したと伝えられています。

開花期は、11月上旬・中旬で、花弁は長く、弁先が裂ける、巻き込む、分岐する、花弁が縮れて垂れ下がるなど咲き方が変化に富んでいます。

花色は赤・白・黄・樺・紅などの他、紅白の咲き分けなど多彩です。

松阪菊は、佐賀菊・江戸菊・肥後菊と共に古い歴史を持つ古典菊の一つです。

※ 松阪三珍花ホームページ <http://matsusaka-sanchinka.jp>



松阪三珍花保存会のあゆみ

●松阪三珍花保存会の発足

松阪公民館に勤務していた森智子は1969年(昭和44年)旧知の岡村金蔵が戦前より「松阪三珍花」の研究・育成・栽培を、今も行っていることを知り、県の文化財や植物関係の文献・書籍から、この3種の花が徳川時代から引き継がれてきた松阪市発祥の貴重な花であることを知った。

森・岡村は、1970年(昭和45年)に公民館講座として「松阪三珍花・園芸講座」を撫子:岡村、花菖蒲:青木清次郎、菊:中井喜一の指導にて開講した。

1971年(昭和46年)、伊勢(松阪)三珍花の研究を精力的にされていた三重大学富野耕治教授の講演会を期に、グループの名称を「松阪三珍花の会」とし、初代会長を石田小壺とし本格的な活動に入った。

その後、松阪市教育委員会より三珍花保存の指定を受け、会の名称も「松阪三珍花保存会」と改め、名実ともに、現在の保存会が誕生した。

●松阪三珍花保存会の活動状況

会の目的は松阪三珍花の品種(系統)保存とその普及活動である。

創立以来、松阪公民館(後に幸公民館)を活動拠点として毎月1回例会を開催し「松阪三珍花の栽培・管理学習会」、「情報交換、苗・種の交換会」などを行っている。

主な活動は、5月の「松阪撫子展」、6月の「松阪花菖蒲展」、11月の「松阪菊展」の開催である。

展示会は会の創設以来、松阪公民館で行ってきたが現在は、本町の豪商ポケットパークで開催している。

その他には、緑化活動も創立間もないころより「中部台公園菖蒲池」への移植、花の種・苗の配布、各地の展示会への出展などを実施し、現在は鈴の森公園内で、松阪花菖蒲「古花、新花」の栽培・管理を行っている。

渉外活動として「撫子」では京都府立植物園・三重県農業研究所、「花菖蒲」では加茂荘花鳥園・日本花菖蒲協会などと「菊」では新宿御苑・国立歴史民族博物館くらしの植物苑などと交流を行ってきた。

<お問い合わせ>「松阪市幸公民館」〒515-0073 松阪市殿町 1198-2 Tel 0598(23)9549



松阪三珍花保存会設立 50 周年記念

「松阪菊展」令和 3 年(2021 年)11 月 12 日~17 日



美香(びか)(大輪種)



暁紅(ぎょうこう)(中輪種)



浜千鳥(はまちどり)(中輪種)



源平咲分(げんぺいさきわけ)(中輪種)

この品種は江戸時代に出版された菊花壇養種(菅井 1846)に記載されています。



松阪三珍花



松阪撫子



松阪花菖蒲



松阪菊